

社会福祉施設 災害多発注意報



平成24年度 長崎労働局作成

図1

社会福祉施設における休業4日以上の労働災害発生件数は増加傾向にあり、特に平成23年は大幅に増加しました。

このパンフレットは、県内における社会福祉施設の労働災害を分析し、原因・対策等についてご紹介しています。

(件数) 年次別・社会福祉施設における労働災害発生状況(長崎県内)

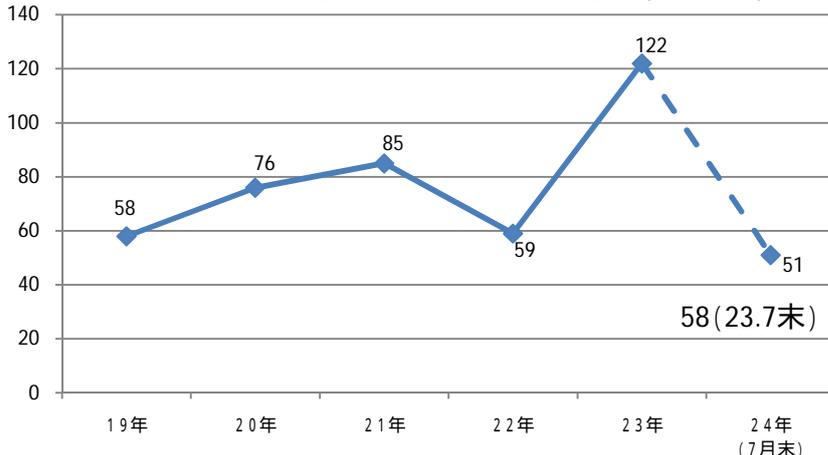
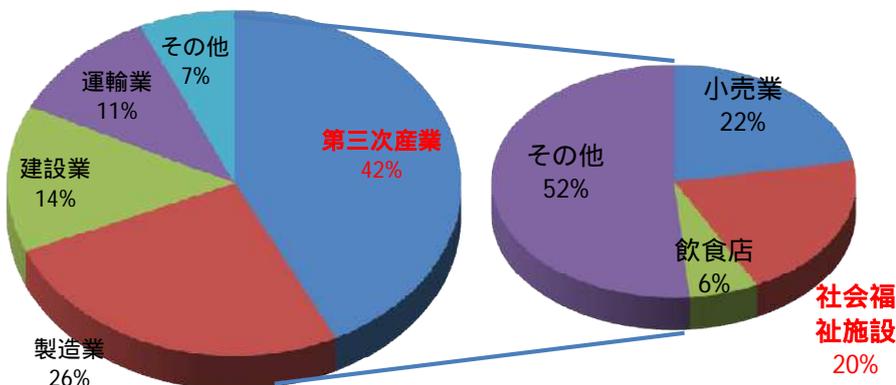


図2

業種別・労働災害発生状況(県内・23年)

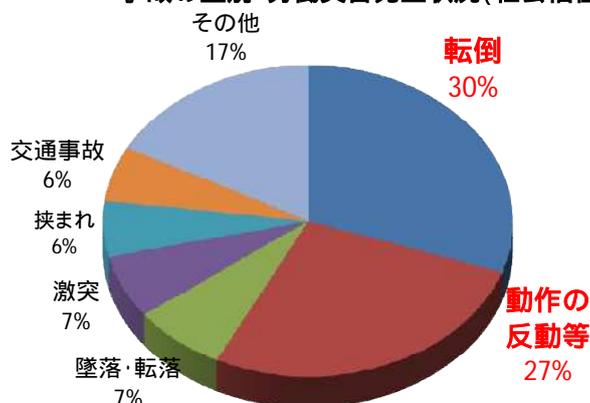


全産業に対して、第三次産業の占める割合が年々増加しており、平成23年は42%と4割を超えています。

その中でも、小売業、社会福祉施設が占める割合が大きいことから、この2業種を労働災害防止の重点対象としています。

図3

事故の型別・労働災害発生状況(社会福祉施設)



平成23年の社会福祉施設の労働災害発生状況を事故の型別で見ると、「転倒」30%、「動作の反動等(腰痛等)」27%の占める割合が高く、全体の6割程度を占めています。

* 上記図1～3は休業見込み4日以上災害について「労働者死傷病報告書」より作成

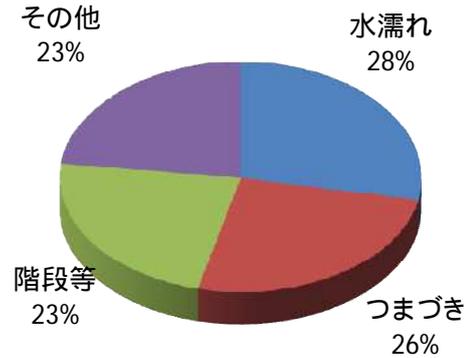
社会福祉施設では、安全・安心・快適な生活環境を利用者に提供することを最も重要な責務としています。施設の運営者、管理者、職員がそれぞれの持ち場・立場の任務と責務を明確にして、事故・災害の防止に全員で取り組みましょう。

転倒災害防止

〈転倒事例〉

- ケース1** 厨房内、配膳中にこぼれた汁、利用者の尿などに気づかず、床面を通行する際に転倒するケース
- ケース2** 通路に無造作に置いていた箱やコードにつまづき転倒するケース
- ケース3** 階段の踏み外し、玄関から出た直後の段差で転倒するケース

転倒原因の分析結果



| 番号 | 発生年月 | | 労働災害発生状況 | 転倒ケース |
|----|-------|---|--|-------|
| | 性 | 別 | | 休業見込み |
| | 年 | 代 | | 傷病名 |
| 1 | 23.10 | | 施設内のリネン室内において、洗濯物を棚に収納していたところ、洗濯物を乗せていた台車に足がかかり、転倒したものの。 | ケース2 |
| | 女性 | | | 2ヶ月 |
| | 50代 | | | 骨折 |
| 2 | 24.4 | | 一般棟のサービスステーション前でカルテを戻そうとしたところ、床面が濡れていたため、転倒したものの。 | ケース1 |
| | 女性 | | | 1ヶ月 |
| | 30代 | | | 骨折 |
| 3 | 24.5 | | ヘルパー時に病院で薬を受け取った後、玄関から出る際、段差(約13cm)に気づかず、転倒したものの。 | ケース3 |
| | 女性 | | | 1ヶ月 |
| | 50代 | | | 捻挫 |
| 4 | 24.6 | | 屋外に設置された喫煙室に向かう階段で足を滑らせ、転倒したものの。(階段は降雨のため濡れていた) | ケース1 |
| | 男性 | | | 2週間 |
| | 20代 | | | 打撲 |
| 5 | 24.8 | | 週末の夏祭りのゴミを勝手口から敷地内の集積場所に持ちだそうとしたところ、濡れたゴムシートに足を滑らせて、転倒したものの。 | ケース3 |
| | 女性 | | | 45日 |
| | 20代 | | | 骨折 |

〈対策〉

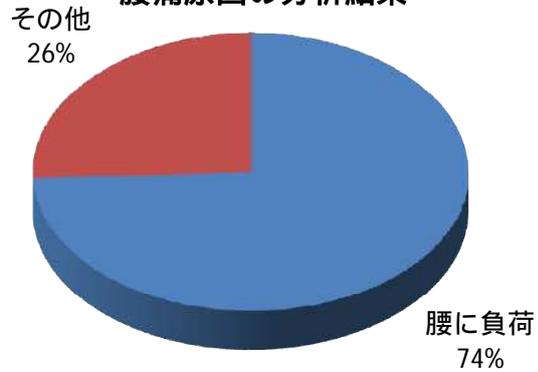
4S(整理、整頓、清掃、清潔)活動

| | |
|-----|---|
| 整理 | 必要なものと不要なものに分け、不要なものを処分すること |
| 進め方 | 不要なものの廃棄基準、判断がつかない物の要不要を判断する責任者を定める。 4Sゾーン(区域)ごとに所属従業員全員が掃除し、不要なものを廃棄する(定期的に行う。) 施設長が定期的に巡回して整理の状況をチェックする。 チェック結果により改善し、必要に応じ廃棄基準を見直す。 |
| 整頓 | 必要なときに必要な物をすぐ取り出せるように、分かりやすく安全な状態で配置すること |
| 進め方 | 現状を把握する(置く物、置き場所、置き方、使用時の移動距離)。 置く物の種類、置き場所、必要数量を決定する(種類・量とも絞り、移動距離を短くすること) 場所ごとの管理担当者を定める。 取り出しやすく、しまいやすい置き方を決める、 定期的にチェックし、必要に応じ改善する。 |
| 清掃 | 身の回りをきれいにして、衣服や廊下のゴミや汚れを取り除くこと。清掃の励行 |
| 清潔 | 整理・整頓・清掃を繰り返し、衛生面を確保し、快適な職場環境を維持すること。 |

腰痛対策

介護者の入浴介助、ベッドへの移乗や、トイレ介助などで、腰に大きな負荷がかかり発症することが多い。

腰痛原因の分析結果



〈腰痛事例〉

| 番号 | 発生年月 | | 労働災害発生状況 | 作業場所 | |
|----|------|----|---|-------|-----|
| | 性別 | 年代 | | 休業見込み | 傷病名 |
| 1 | 24.3 | 女性 | トイレ内で立っている利用者を後方より介助中、突然座りこもうとした利用者を足で支えた際、左足つけ根を傷めたもの。 | トイレ | 1ヶ月 |
| | 50代 | | | 肉離れ | |
| 2 | 24.5 | 女性 | ベッド上の利用者が下側にさがっていたので、上方へ引き上げようとしたところ右下腿ふくろはぎに負担がかかり、負傷したもの。 | ベッド | 2週間 |
| | 50代 | | | 捻挫 | |
| 3 | 24.6 | 女性 | 施設ホール内で、車椅子に座っている利用者の体勢が下にずれていたため、後方より抱えあげようとして、腰に痛みを生じた。 | その他 | 18日 |
| | 20代 | | | 腰痛 | |
| 4 | 24.7 | 男性 | 利用者をベッドから車椅子へ移乗させるため、利用者の体位をベッド上で起こそうとしたところ、腰から左大腿部にかけて痛みが生じたもの。 | ベッド | 3週間 |
| | 30代 | | | 筋挫傷 | |
| 5 | 24.7 | 女性 | 入居者を入浴させようと車椅子からリフトへ移動させるため、おむつ、ズボンを下げた後、リフトへ移乗しようとしたところ、左側背部に激痛が生じたもの。 | お風呂 | 10日 |
| | 50代 | | | 肋間筋挫傷 | |

〈対策〉

(3管理1教育)



(参考資料)

介護作業者の腰痛予防対策チェックリスト **大丈夫?**

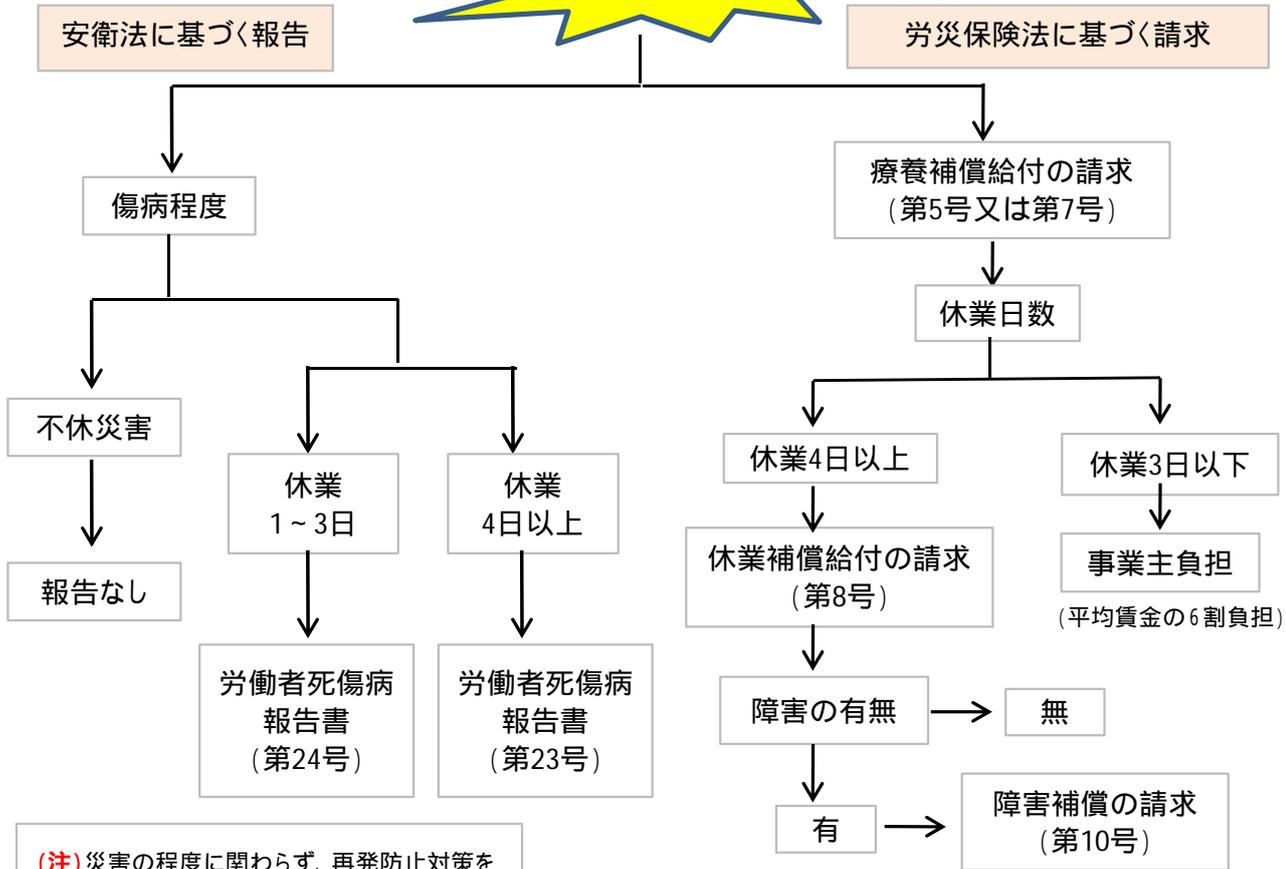
http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/dl/checklist_a.pdf

(チェックリスト)

* 判定が否となった場合、改善に努めましょう。

| 番号 | チェック項目 | 判定 |
|----|--|-----|
| 1 | 安全管理担当者は選任されていますか？(衛生管理者、産業医など) | 適・否 |
| 2 | 労働災害防止のため、労働者の意見を聴く機会がありますか？ | 適・否 |
| 3 | 不要なものの廃棄基準はありますか？ | 適・否 |
| 4 | 管理者(施設長など)が定期的に整理状況を確認していますか？ | 適・否 |
| 5 | 必要に応じ、廃棄基準を見直していますか？ | 適・否 |
| 6 | 福祉機器、ワゴン車など置く物、置き方、積み方に定めはありますか？ | 適・否 |
| 7 | 区域、エリアごとの管理担当者を定めていますか？ | 適・否 |
| 8 | 突発的な汚れ(水濡れ)の除去の方法に定めはありますか？ | 適・否 |
| 9 | 整理、整頓、清掃を繰り返し衛生面を保っていますか(4S活動の推進)？ | 適・否 |
| 10 | 作業環境管理(温度、照明、作業床面、設備)に問題はありませんか？ | 適・否 |
| 11 | 腰痛の健康診断は配置前及び定期的実施していますか？ | 適・否 |
| 12 | 腰痛予防体操は実施していますか？ | 適・否 |
| 13 | 福祉機器を導入していますか？ | 適・否 |
| 14 | 作業姿勢や動作について、定期的に勉強会を開催していますか？ | 適・否 |
| 15 | 利用者の身体状態、作業内容ごとに作業計画を作成していますか？ | 適・否 |
| 16 | 労働災害が発生した場合、再発防止対策を検討していますか？ | 適・否 |
| 17 | 「腰痛に関する知識」、「作業姿勢」、「補装具の使用方法」、「腰痛の予防体操」など作業負担軽減に向けて労働衛生教育を実施していますか？ | 適・否 |
| 18 | 災害をヒューマンエラーだけで片付けることなく「物的」、「人的」、「管理的」要因を多角的に検討していますか？ | 適・否 |

災害発生



(注) 災害の程度に関わらず、再発防止対策を講じて下さい

(問い合わせ先)
このパンフレットでご不明な点がある場合は、長崎労働局 健康安全課又は所轄の労働基準監督署へご相談下さい。